

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人
------	----	-----	----	-----	----	-----

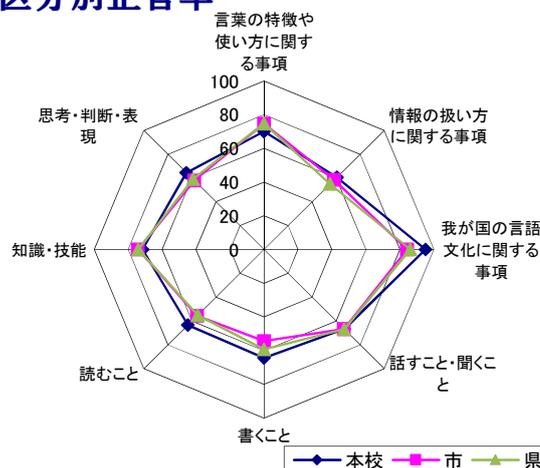
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.1	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	60.7	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	95.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.8	66.7	66.9
	書くこと	64.3	54.3	59.3
	読むこと	63.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	71.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	64.5	58.0	59.1



## ★指導の工夫と改善

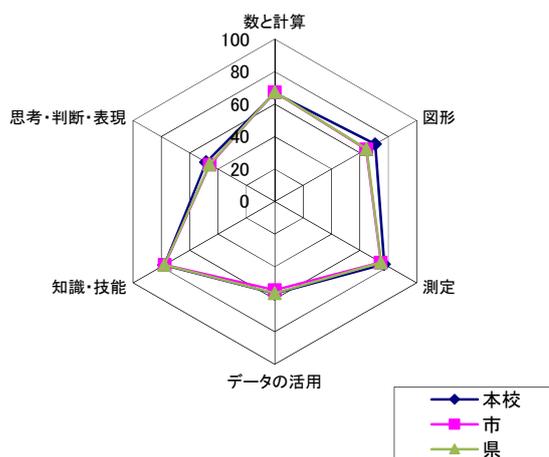
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は70.1%で、市の平均を下回っている。</li> <li>●漢字の書き問題についての正答率が低い。</li> <li>○ローマ字表記の読み取りの問題については、市の平均を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きについては、学習習慣を身に付けるために、家庭学習や確認のための小テストを行うなど、毎日のリズムとして取り組めるように工夫していく。</li> <li>・日頃から、文章を書くときには既習漢字を使うように声掛けをする。</li> <li>・新出漢字だけでなく、既習学年の漢字のまとめテストなども定期的に行い、定着を図る。</li> </ul>
情報の扱い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は60.7%で市の平均を上回っている。</li> <li>○複数ある意味の中から、例文の内容に合うものを選ぶ問題では、正答率が市の平均を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中から大事な言葉や文を見つけて線を引く活動などを取り入れることで、文章の中心を捉えられるようにする。</li> <li>・意味の分からない言葉を自分で確認する時間を設けたり、クラス全体で場面や文脈に適した言葉の使い分けを確認する時間を設けたりするなどし、国語科に限らず他教科でも辞書や事典の利用を推奨していく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は95.1%で、市の平均を10ポイント上回っている。</li> <li>○漢字のへんやつくりをよく理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の生活から、既習の漢字を使うように指導し、確実な定着を図っていく。また、前学年の漢字の復習にも力を入れて指導していく。</li> <li>・新出漢字の学習では、漢字の成り立ちや構成にも触れ、児童の関心を高め、学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は66.8%で、市の平均とほぼ同じであった。</li> <li>●参加者の発言の内容に着目して司会者の発言に適する内容を書く問題では、平均正答率が29.5%と低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科や他教科、学級活動などにおいて、児童が既習事項を活用できるよう、教師側が意識的に指導することで、自分の考えを伝える力を高められるようにする。</li> <li>・理由や根拠を挙げて自分の意見を述べる指導を継続する。</li> <li>・国語科だけでなく、他教科や学級活動等でも、友達の意見を受けて、根拠ある自分の意見を伝える場面を増やす。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率が64.3%で、市の平均を10ポイント上回っている。</li> <li>○指定された長さで文章を書くことや、自分の考えを明確にして文章を書く問題では、正答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習や授業の時間を使い、意見文の型を踏まえて短時間で書く練習をするなどして、書く力の定着を図る。</li> <li>・構成や書き表し方が適切かどうかを考えながら、自分の意見を文章で書く練習をすることで、相手や目的を意識した文章を書く力を高めていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率が63.3%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○物語文の読み取りでは、叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える問題の正答率が高い。</li> <li>○説明文の読み取りでは、叙述を基に、文章の内容を捉える問題の正答率が高い。</li> <li>●説明文の読み取りでは、段落の内容を捉える問題で正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読む際には、場面の様子、人物の行動や心情など描写を丁寧に捉えて想像をより広げながら読むようにする。</li> <li>・書かれていることを正確に読み取るために、指示語や段落同士のつながりを捉え、読む力を高める。</li> <li>・文章を読み取る際に、段落ごとに書かれている内容を掴み、文章全体の内容を捉える力を育てる。</li> </ul>

# 宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.8	67.3	67.4
	図形	70.8	64.5	64.7
	測定	77.1	74.7	74.9
	データの活用	56.6	54.4	56.4
観点	知識・技能	78.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	48.5	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

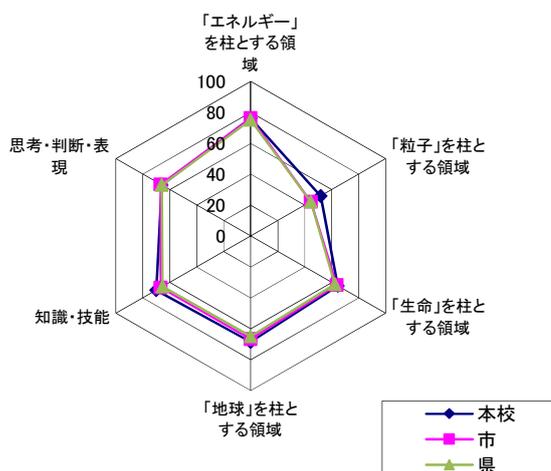
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は66.8%で、市の平均をやや下回っている。</li> <li>○余りのない2けた÷1けたの計算では、正答率が95.1%で市の平均を3.8ポイント上回っている。</li> <li>○四角を使って問題の場面を図に表す問題では、市の平均を6.3ポイント上回っている。</li> <li>●式の意味を言葉で説明する問題では、正答率が13.1%と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIDリル等を活用して繰り返し復習の機会を設けることや、学習形態を工夫することなどの取り組みを通して、四則計算や数の表し方など、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・式の意味を考えたり、図に表して説明したりする活動を取り入れることで、式が表している場面の意味を読み取ったり、式を用いて考えを伝え合ったりする力の育成を目指す。</li> <li>・分数については、仕組みがよくわかるように数直線や図などを用いて、視覚的な理解を促すことで定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は70.8%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○球の半径の問題では、正答率が73.8%で、市の平均を10.4ポイント上回っている。</li> <li>○コンパスの使い方の問題では、正答率が70.5%で、市の平均を11.5ポイント上回っている。</li> <li>●円の性質と正三角形の関係の問題では、市の平均を5.4ポイント上回っているものの、39.3%と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円と球、三角形については、半径や直径など、基礎的な用語とそれぞれの関係をおさえ、活用の問題などを使って復習する機会を積極的に設けることが必要と考える。</li> <li>・また、日常生活場面において、確認したり活用したりする場を意図的に設け、数学的な思考力を育むようにする。</li> <li>・活用問題については、単元の終わりなどに計画的に組み入れていく必要がある。</li> </ul>
測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は77.1%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。</li> <li>○時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が85.3%で市の平均を4.2ポイント上回っている。</li> <li>●はかりの重さを読み取る問題の正答率は、市の平均を上回っているものの、50.8%と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で時刻と時間の概念を十分に身に付けられるよう、今後も意図的な声かけをするとともに、時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、さらなる習熟を図る。</li> <li>・算数だけでなく理科の学習などでも、重さや長さを読み取る際には、1目盛りがいくつを表しているかを視覚的に確認できるようにすることで、正しい量を測定する力を高めていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は56.6%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○棒グラフを読み取る問題では、正答率が90.2%と高く、市の平均をやや上回っている。</li> <li>●目盛りの異なる2つの棒グラフを読み取る問題では、市の平均は上回っているものの、正答率が23.0%と低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの目盛りの読み方などについては、さらなる定着を図るため他教科と連携し、目的に合ったグラフを選び、活用する活動を取り入れていく。</li> <li>・他教科においても、グラフから考えられることを言語化し、友達と意見交換する場を設けることで、正しくグラフを読み取る力の向上を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	51.9	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	64.5	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	68.5	66.6	64.9
観点	知識・技能	70.0	66.8	65.4
	思考・判断・表現	66.0	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は76.3%で、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「ゴムの働き」の問題については、正答率が47.5%で、市の平均正答率を10.8ポイント下回る正答率となった。ゴムを伸ばす長さや車の進む距離の関係を実験結果を生かして推測する力が不十分である。	・日常生活の事象と既習事項を関連させる学習活動を十分に行う。 ・多数の結果をもとに、考える活動などを意図的に取り入れることで、推測する力や応用する力を育てる。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は51.9%で、市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。 ●実験結果を基に、分かることやその理由を記述する問題では、正答率が低かった。	・既習事項を日常生活の事象と関連させて考える時間を設けることにより、学習内容の理解がより深まるようにする。 ・実験結果から分かったことや考えたことを、理科の用語を使いながら自分の言葉で説明する活動を意図的に設ける。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は64.5%で、市の平均正答率をやや上回っている。 ●虫の体のつくりや、ホウセンカの成長についての問題では、正答率が低かった。	・複数の種類を観察し、共通点や差異点を基に考えたり説明したりする活動の充実を図ることで、昆虫や植物の特徴を捉えられるようにする。 ・観察したことを知識として学びにつなげることができるように、生活科の学習との関連を意識しながら、全体で振り返り活動を行ったり、着目した点に即して仲間分けをするなどの活動を意識的に取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は68.5%で、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「かげと太陽」の実験の記録から、かげの動く様子を推測する問題では、正答率が市の平均を6.4ポイント下回った。	・理科で学習したことを、生活の中の自然事象とつなげる活動を単元末に重視する。 ・観察結果から考察したことを共有し、知識と結びつけることができるよう、太陽や影の位置の変化を方位で表すなどし、東西南北で空間を捉えられるようにする。

## 宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家でのかまりや約束を守っている」の肯定的回答が、市の平均よりいずれも上回っている。この様子から、家族のつながりがあり、児童が自己肯定感や家族の一員感を感じながら落ち着いた家庭生活を送っていることが伺われる。

○「次の教科などの学習は、しょう来のために大切だと思うか」の質問に対して、国語・社会・算数・理科すべての教科において、肯定的回答が市の平均よりも上回っており、各教科の有用感や学習に対する意識の高さが感じられる。

○「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答が、市の平均よりも上回っている。家庭学習の習慣が身に付いており、基礎基本の内容だけではなく、調べ学習などの自主学習にも取り組んでいる様子が伺われる。今後も、継続して取り組めるような言葉かけをしていく。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問に対して、「11冊以上」と答えた児童の割合が31.2%となっており、市の平均より7ポイント以上上回っている。このことから、普段から本に触れる習慣ができていていることを感じる。

○「家で、学校の授業の予習をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的回答が、市の平均より高く、日頃から家庭学習への取り組みが身に付いていることが分かる。

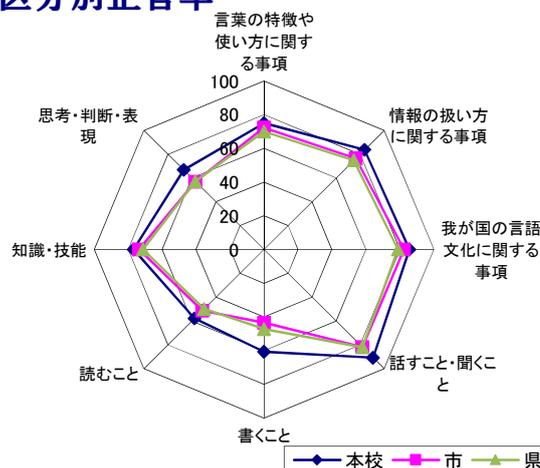
●「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」「学校の宿題はやりたくない内容だ」「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答は、市の平均を下回っており、今後、児童が意欲的に取り組める内容の課題となるように考えていく必要がある。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っけてクラスのきまりなどを決めていと思う」の肯定的回答が、市の平均より下回っている。児童が自発的に話し合いに参加できるような環境づくりに努めるとともに、児童同士の話し合い活動を大切に学級活動や学級づくりが必要だと考える。

# 宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	83.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	90.8	81.9	82.0
	書くこと	60.7	43.5	47.2
	読むこと	57.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	76.8	73.6	71.3
	思考・判断・表現	66.8	57.1	57.2



## ★指導の工夫と改善

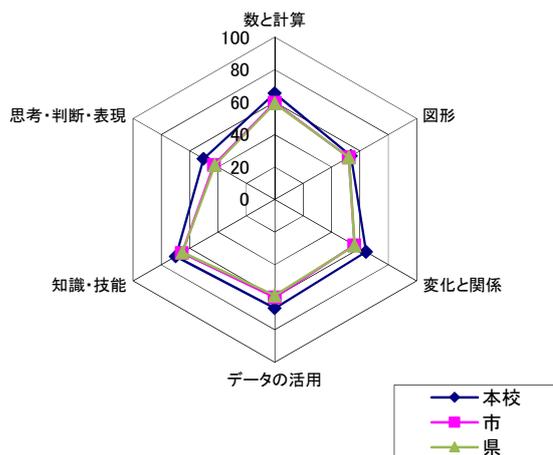
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は75.0%で、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み・書きについては、市の正答率を上回っている問題がほとんどだった。これまでの学習を通して定着が図れたと考えられる。 ●連用修飾語の問題については、正答率が低い。	・漢字の読み書きについて、新出漢字を使った様々な熟語に触れる機会を意図的に設定する。 ・こまめに漢字小テストを実施することで、漢字の習得を図る。 ・修飾語の理解・活用についても、練習問題に取り組みながら、習熟を図る。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率が83.7%で、市の平均を上回っている。 ○漢字辞典の使い方をよく理解している。	・漢字辞典を引く時間を意図的に設け、総画索引や部首索引などの方法で、漢字を引く力を付けられるようにする。 ・目的に応じていろいろな種類の事典を選んだり、目次や索引を利用して情報を得たりすることができるよう、国語科に限らず他教科でも辞書や事典の積極的な利用を推奨していく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率が85.7%で、市の平均を上回っている。	・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る機会を増やす。 ・ことわざや慣用句、故事成語などを日常生活の中で実際に使えるようにしていくために、ことわざなどを意図的に取り入れるような条件を示して日記や短文を書く活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が90.8%で、市の平均を上回っている。 ○意見の共通点に着目して考えをまとめる問題では、市の平均を21.1ポイント上回っている。	・相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す機会を意図的に設定する。 ・話し手が伝えたいことの内容を捉えたり、意見の共通点や相違点に着目しながら考えをまとめたりできるように、指導を継続する。また、国語の授業や他教科、学級活動などの話し合い活動の中で、様々な役割を経験できるような場を増やす。
書くこと	○平均正答率は60.7%で、市の平均を17.2ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書くことや、段落の役割を理解し、2段落構成文章を書くことができている。	・朝の学習や家庭学習、授業の時間を使い、意見文の型を踏まえて短時間で自分の意見を書く練習に取り組むなどして、書く力の定着を図る。 ・教科横断的に、要約する学習を取り入れることで、文章をまとめる力を育てていく。
読むこと	○平均正答率が57.9%で、市の平均を上回っている。 ○物語文の読み取りでは、登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えたり、気持ちの変化について、複数の叙述を結びつけて具体的に想像したりすることができている。	・これまで通り読書を奨励し、いろいろなジャンルの本に親しむ場を設ける。 ・説明文では、叙述を基に段落相互の関係に着目できるようにするため、文法(主語と述語、修飾語と被修飾語、指示語、接続語など)の役割を理解する力を育てていく。 ・他教科の学習においても、既習事項の活用、文章の構造を意識させながら、読む力の向上を目指していきたい。

# 宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.4	59.7	59.2
	図形	53.7	52.1	52.1
	変化と関係	64.3	56.1	56.3
	データの活用	66.8	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.8	65.5	65.1
	思考・判断・表現	50.2	42.9	42.4



## ★指導の工夫と改善

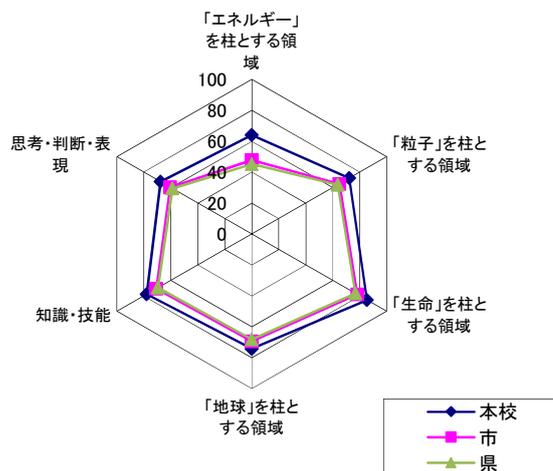
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は65.4%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○式を言葉で説明する問題では、市の平均を16.7ポイント上回っている。</p> <p>●目的に応じて概数を使い分ける問題では、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p> <p>●四則混合の式について計算の順序を理解しているか問う問題では、市の平均を6.9ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も基礎基本の確実な定着を目指し、プリントやAIDドリル等を活用するなど、繰り返し復習していく。また、学習したことが、算数だけでなく、他教科や日常生活に生かすことができることに気付くことができるよう、意識的に声かけをしていく。</p> <p>・概数や計算の順序、計算のきまりについては、まだ理解が十分でない児童が見られるので、習熟度別学習などの学習形態を工夫し、個に応じた学習活動をしていくことを通して、さらなる定着を図る。</p>
図形	<p>○平均正答率は53.7%で、市の平均を1.6ポイント上回っている。</p> <p>○複雑な図形の面積を求める問題では、市の平均を13.9ポイント上回っている。</p> <p>●ひし形の作図をする問題では、市の平均を10.1ポイント下回っている。</p>	<p>・プリントやAIDドリル等を活用し、図形の性質や面積を求める問題について復習の機会を設け、よりいっそうの習熟を図る。</p> <p>・面積の単位(<math>m^2</math>, <math>cm^2</math>, a, ha)の関係や換算の仕方について繰り返し復習の機会を設けるとともに、普段の授業や日常生活場面においても確認したり活用したりする場を意図的に設定するなどし、身近なもの面積や広さの量感を着実に身に付けられるようにしていく。</p> <p>・三角定規や分度器、コンパス等の使い方や特徴については、まだ習熟が十分でない児童も見られるため、学習活動の中で繰り返し活用することで理解を深められるようにする。</p>
変化と関係	<p>○平均正答率は64.3%で、市の平均を8.2ポイント上回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量関係を読み取る問題では、市の平均を10.3ポイント上回っており、正答率も91.8%と高かった。</p> <p>●比例の関係を説明する問題では、市の平均を上回っているものの、正答率が26.5%と低かった。</p>	<p>・学習内容をさらに定着させるため、AIDドリル等を活用して繰り返し復習する時間を取る。</p> <p>・伴って変わる数やいつも変わらない数のきまりについては、理解が十分でない児童も見られるため、プリントやドリルで集中的に復習していく。</p> <p>・数量の変化や関係について自分の言葉で説明したり、発表したりする機会を増やすことを通して、数学的な思考力を育むことを目指す。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は66.8%で、市の平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○2つの折れ線グラフから数値を読み取り、比較して考える問題では、市の平均より12.6ポイント上回っている。</p> <p>●二次元表を読み取り、条件にあてはまる数を答える問題では、市の平均を上回っているものの、正答率が32.7%と低かった。</p>	<p>・既習内容をしっかりと身に付けられるよう、プリントやAIDドリル等を活用し、定期的な復習の時間を設けるなど、さらなる定着を図る。</p> <p>・表やグラフの読み取り、活用については、算数だけでなく社会や総合的な学習の時間など、他教科と連携し、様々なグラフから考えられることを表現する習慣を付けていく。</p> <p>・授業の中で、自分の考えをじっくりとまとめる時間を十分に確保することで、児童が自力で問題を読み解く力をさらに育てていく。</p>

# 宇都宮市立小学校昭和 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	72.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	85.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	74.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	77.9	70.8	69.5
	思考・判断・表現	67.7	60.5	58.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は64.0%で、市の平均正答率を16.2ポイント上回っている。 ●「電気のはたらき」の問題については、正答率が低い問題があり、理科的な用語を答えることができていない。	・学習のまとめを記述する際に、理科の用語を正しく使うことができるよう、大切な用語を意識しながら観察・実験を行うよう支援していく。 ・乾電池やモーターなどを使う実験をする際に、電流の大きさや向きについて考えたことを図を用いて表現したり、「電流」「直列つなぎ」「並列つなぎ」などの理科の用語を使用して説明したりするなど、説明をする活動の充実を図る。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は72.2%で、市の平均正答率を6.3ポイント上回っている。 ●「とじこめた空気や水」についての設問では、ボールに空気を入れると弾む理由について記述で答える問題で、正答率が市の平均を5.6ポイント下回っている。	・実験結果から分かったことや考えたことを、理科の用語を使いながら自分の言葉で説明する活動を意図的に設ける。 ・空気と水の性質の違いを、体感を基にしながら調べるようにしたり、日常生活と関連させたものを取り上げたりすることで、理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は85.3%で、市の平均正答率を6.9ポイント上回っている。 ●サクラの様子が季節ごとにどのように変化するかについての設問では、市の平均正答率を6ポイント下回っている。	・植物の季節ごとの変化について、色々な植物と関係付けて共通点や差異点に注目しながら、観察したり、整理したりする活動を通して、確実に知識につなげるようにする。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は74.2%で、市の平均正答率を4.7ポイント上回っている。 ●月の動き方と動く向きを問う問題では、市の平均回答率を11.4ポイント下回り、理解が不十分であった。	・実際に見て観察することが難しい場合は、デジタル教材等を活用したり、家庭で観察した結果について確認整理したりし、確実に知識につなげるようにする。

## 宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が98%と市の平均より0.9ポイント高い。また、「学校の授業時間以外にふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」では、30分以上学習している児童95.5%と家庭学習の習慣は身に付いていると考えられるが、宮っ子ダイアリーで示されている家庭学習の時間の目安である1時間以上学習している児童が51%となっている。今後、宿題や自主学習等を工夫していきたい。

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強をしていて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答が、市の平均より高い。不思議だと感ずたことを調べることや、分かるまで調べたいという思いが、勉強をする楽しさ、おもしろさにつながっていると思われる。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答が100%だった。特に算数に関する質問では、授業の内容が分かるという質問に対して肯定的回答が95.9%、将来のために大切だと思うという質問に対して肯定的回答が100%となっており、学習に対して前向きに取り組んでいることが考えられる。今後も教科指導とともにキャリア教育を通して、自分の将来に夢や希望をもつ児童を育てていきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」では、肯定的回答が100%、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」では83.7%と市の平均を6.6ポイント上回っている。宇都宮モデルの活用を通じた指導の成果が表れていると考えられる。今後も児童に分かりやすく目標を示し、自己の伸長を感じられるように振り返りを行っていけるようにする。

○「家の人としょう来のことについて話すことがある」では、肯定的回答が77.6%で市の平均を8ポイント上回っている。また、「家の人と学習について話をしている」では、肯定的回答が91.9%と市の平均を12.6ポイント上回っており、家庭が児童の教育に関心をもっていることが伺える。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答は98%となっているが、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の肯定的回答が53%となっており、市の平均より8.1ポイント下回っている。今後、児童が意欲的に取り組める内容の課題となるように考えていく必要がある。

●「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問では、5冊以上読んでいる児童の割合が42.9%で、市と同程度、「新聞を読んでいる」の質問で、「週に1～3回以上」と答えた児童の割合が10.2%となっており、市の平均をやや上回っているものの、どちらも十分であるとは言えない。日頃から読書の機会を増やせるような工夫や、授業の中で新聞を活用するなどの取り組みが必要である。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」では肯定的回答が67.4%であるが、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」では肯定的回答が98%となっている。児童の思いを汲み、自分のよさを生かし、人の役に立っていると実感できるような取り組みが必要だと考える。

## 宇都宮市立昭和小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自ら考え分りやすく表現できる児童の育成	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にして、話したり文章にまとめたりするよう指導している。	国語の「自分の考えを理由を挙げながら話す」問題や算数の示された考えや条件をもとに答えの求め方を説明する問題、理科の実験の結果を根拠をもとに記述する問題において、4・5年生とも県や市の平均を上回っている。理科においては、4・5年生とも県の平均を14ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年に2回学力アップ月間を設けている。各学年ごとに家庭学習に取り組む目標を決め、「がんばりカード」に取り組んだ内容や時間を記入し、家庭でも確認してもらうことを通し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図っている。	4・5年生ともに、「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、95%以上である。一方、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」は、4年生で64%、5年生で69.4%である。4年生において宿題に関する肯定的回答が市の平均を下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、漢字の書きや言葉の使い方に関する問題、図形の作図、月の動きなど、基本的な知識や技能に関わる問題の中で、県平均よりも5ポイント以上低いものがあった。	復習により定着を図る学習の充実	漢字や言葉の使い方に関しては、該当学年の学習だけではなく、既習学年の事項に関する復習を取り入れていく。また、単元の導入などに、前学年までの関連する事項の復習などをする機会を設け、定着を図れるようにする。